

小学校第3学年 国語科学習指導案

- 1 単元名 調べたことをほうこくする文章を書こう
- 2 参考教材名 「気になる記号」(光村図書 3年上)
「調べたことを整理して書こう」(東京書籍 3年下)
「くらべて分かったことを書こう」(東京書籍 3年下)

3 単元について

(1) 児童観

本学級の児童は、これまでに、体験を報告する文章や観察したことを報告する文章を書く学習をしており、時間の順序や事柄の順序に気を付けて、簡単な構成で文章を書くことができるようになってきた。調べて分かったことを基にして段落を意識して報告する文章を書くことは、本単元が初めてとなる。

(2) 教材観

本単元では、第3学年及び第4学年「書くこと」の指導事項「ア 関心のあることなどから書くことを決め、相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べること」「イ 文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成すること」を重点的に指導する。

教材「気になる記号」(光村図書3年上)「調べたことを整理して書こう」(東京書籍3年下)は、課題について調べたことを報告する文章に書くという一連の学習過程が説明されている。取材カードや構成表の書き方、文末表現や表記の仕方などを学習することができ、調査報告文及び報告レポートを書く手順を学ぶのに適した教材である。掲載されている調査報告文及び報告レポートは、「調べたきっかけ」(研究目的)、「調べ方」(研究方法)、「調べて分かったこと」(研究結果)、「かんそう」(考察)という基本的な構成で示されている。

教材「くらべて分かったことを書こう」(東京書籍3年下)は、2つのものを比べて同じところと違うところを事柄ごとに整理して文章に書くことをねらいとしており、調べて得た情報を分類・整理する方法を学ぶことができる教材である。

これらの教材を取り入れた学習は、構成を意識して報告する文章を書く学習が初めての児童には分かりやすい。また、社会科の町探検や施設の見学などの報告、理科の動植物の調査報告などを行う機会が増えるこの時期に適した教材であるとも考える。

児童がここで学んだ実証研究の方法や調査報告文の構成は、今後、4年生の「疑問に思ったことを、アンケートなどで調査し、報告する文章を書く」、更に高学年では「資料を提示しながら報告する」へとつながる。

(3) 指導観

本単元では、「身近な記号について調べて、家族に報告する文章を書く」（「書くこと」の言語活動例イ）という言語活動を取り入れて、以下のような手立てを取りながら指導を行う。

第一次では、まず、身のまわりにある記号を紹介し合ったり、記号カードの仲間分けゲームを行ったりして、身のまわりの記号についての関心を高め、記号について調べたいという気持ちを喚起する。次に、調べて分かったことを家族に報告する文章として「調査報告文」を紹介する。「調査報告文」にはどんな内容がどんな順番で書かれているかを調べ、「調査報告文」の様式とよさを感じさせる。その上で、「〇年〇組探検隊！記号について調べて、家族にほうこくする文章を書こう」という学習課題を設定する。そして、ゴールに向けてどのような学習が必要なのか、教科書に示された「課題設定」→「取材」→「構成」→「記述」→「推敲」→「交流」の活動の流れを確認しながら、学習の計画を立て、見通しをもたせる。

第二次では、調べたことを報告文に書く活動を行わせる。取材活動では、第一次で調べてみたいと思った記号の仲間を本や事典を使って調べさせるが、インタビューや実物の観察による取材もよいことにする。そのため、調べ方や取材カードの書き方については、モデル学習をして丁寧に指導する。構成の段階では、記号の「意味」「記号がついている場所(箇所)」「はたらき」を主な観点として類似点に着目させながら取材カードを分類・整理させる。そして、分かったことを中心にして構成メモを書かせる。記述の段階では、例文を提示し、報告文の基本的な構成や段落の役割、段落に応じた文末表現について再度確認した上で、下書きを書かせる。書くことの学習は個人での活動が多くなるが、できるだけ二人組またはグループで交流する時間を確保し、互いの報告文の構成や表現の工夫に気付かせたい。推敲の段階でも、個人または二人組でチェックシートの項目にしたがってチェックし、間違いを正したりよりよい表現に書き直したりしながら調査報告文を完成させる。

第三次では、完成した報告する文章を一冊にまとめ、読み合い、よいところを見つけて伝え合う活動を行う。そして、一人一人の報告文を家族に渡し、感想をもらうことで達成感を味わわせる。

以上のような学習を通して、児童が報告文の構成や書く手順を知り、文章を抵抗なく書けるよう支援していきたいと考える。

4 単元の目標

家の人に報告する文章を書くために必要な事柄を調べ、示された構成に沿って段落を意識して調査報告文を書くことができる。(書くこと(1)ア・イ)

5 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	書く能力	言語についての 知識・理解・技能
・身のまわりの記号に興味をもって調べたり、段落を意識して文章を分かりやすく書いたりしようとしている。	・目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べている。(ア) ・文章全体における段落の役割を理解し、段落相互の関係に注意して、家の人に報告する文章を書いている。(イ)	・句読点を適切に打ち、段落の始めは行を変えて書いている。

6 指導と評価の計画(全10時間)

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
一	1	○ 生活の中にある記号について話し合い、「○年○組探検隊！記号について調べて、家族にほうこくする文章を書こう」という学習課題を設定する。	<ul style="list-style-type: none"> ・記号カードの仲間分けゲームを行わせ、身のまわりにある記号の種類や意味などに関心をもてるようにする。 ・たくさんの記号に出会わせ、調べて報告する必然性を感じさせる。 ・報告文の例文を示し、説明することで、報告文のよさを感じさせるとともに、学習のゴールのイメージを明確にもたせる。 	<p>【関】 身のまわりのマークに関心を持ち、生活の中から記号を探したいという意欲をもっている。</p> <p>[学習態度の観察]</p>
	2	○ 学習計画を立てる。 ○ 調べたい記号を決める。 【課題設定】	<ul style="list-style-type: none"> ・「家族にほうこくする文章を書く」という目的を確認し、教科書を参考に、課題設定→取材→構成→記述→推敲→交流までの道筋を学習計画に組み込むようにさせる。 ・第1時の記号カードの仲間分けゲームを想起させ、自分が調べたい記号の仲間を選ばせ、選んだ理由を記述させておく。 	<p>【関】 調査報告文を書く学習の見通しを持ち、調べたい記号の仲間を選んでいる。</p> <p>[ワークシートの記述]</p>
二	3 4	○ 「身のまわりの記号について」本で調べ、取材カードを作成する。 【取材】	<ul style="list-style-type: none"> ・調べたい事柄を考えさせる。 ・本での探し方やメモのとり方など、取材の仕方を確認する。 ・個人作業中に取材の仕方が確認できるように、「調べ方」や「取材カードの書き方」の手引きを持たせる。 ・記号に関する本や図鑑などをできるだけ多く準備し、その中の2, 3冊から情報を探せるようにする。 ・本で探すことが困難な児童には、分かりやすくまとめた記号の一覧表を資料として渡し、利用させる。 	<p>【書】 記号について本や図鑑で調べ、必要な事柄を取材カードに書いている。</p> <p>[取材カードの記述]</p>
	5 (本時)	○ 報告する文章の構成を学習する。作成した取材カードを比較・分類し、取り入れるカードを選ぶ。 【構成】	<ul style="list-style-type: none"> ・「意味」「役割」「記号のついている場所(箇所)」の観点で比較・分類することを知らせる。 ・類似点に目を向けながら、取材カードを比較・分類させる。 	<p>【書】 類似点に目を向けながら、取材カードを比較・分類し、報告したい記号を選んでいる。</p> <p>[ワークシートの記述]</p>

	6	○ 文章の組み立てを考え、構成表に書く。 【構成】	<ul style="list-style-type: none"> ・段落の役割に注目させ、自分の書くようとする報告文の参考にさせる。 ・下書きにスムーズにつながるようにそれぞれの段落に書く内容を短い言葉で表現させる。 	【書】 報告文の段落の役割を理解し、目的に合わせて構成表を整理している。 〔構成表の記述〕
	7	○ 文末表現や表記の仕方を確認し、構成表を基に下書きをする。 【記述】	<ul style="list-style-type: none"> ・段落の役割に応じた文末の書き表し方や符号などを確認し、積極的に使わせる。 ・調べた情報が不足しているときは、必要に応じて調べさせ、下書きに反映させるようにする。 	【書】 報告する文章の書き方に沿って記述している。 〔下書きの記述〕
	8	○ 下書きを二人組で読み合い、よりよい書き方に直す。 【推敲】	<ul style="list-style-type: none"> ・チェックシートの観点に沿って、二人組で下書きの見直し、加除修正させる。 ・加除修正を行った下書きの不十分な部分には、教師がアドバイスを加える。 	【書】 報告文を読み返し、間違いなどを正したり、よりよい表現に書き直したりしている。 〔チェックシート及び下書きの加除修正の様子〕
	9	○ 加除修正した下書きを基に、清書し、報告する文章を完成する。 【清書】	<ul style="list-style-type: none"> ・調べたことを記述する際、記号の絵を描く時間を割かず済むように、記号の絵は、あらかじめ、準備しておく。 ・報告する相手である家族を意識させて、より読みやすい字で書かせる。 	【書】 推敲した文章をよりよく書き直したり、報告する相手を意識してていねいに清書したりしている。 〔報告文の記述〕
三	課外	○ 家族に、完成した報告する文章を渡す。	<ul style="list-style-type: none"> ・家族には、学習の趣旨を通信などで説明し、児童の書いた報告する文章に対して感想を書いてもらうようにお願いする。 ・児童に、めあてを達成できた充実感を味わわせる。 	
	10	○ 報告する文章をクラスで読み合い、意見や感想を交流する。 ○ 学習を振り返り、身に付いた力を確認する 【交流】	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス分を1冊の報告書としてまとめておく。 ・友達の報告する文章のよい点について、互いに認め合える時間にする。 ・これまでの学習を振り返り、学習したことをまとめさせる。 ・ワークシートの評価項目を基に自己評価させる。 	【関】 報告文を読み合っていて感じたことを進んで伝え合おうとしている。 【書】 学習を振り返って、自己評価している。 〔交流時の発言やワークシートの評価記述〕

7 本時の計画(5 / 10)

(1) 目標

- 類似点に目を向けながら取材カードを分類・整理し、報告したい記号を選ぶことができる。

(2) 展開

学習活動	指導上の留意点及び評価
1 学習のゴールをイメージし、本時のめあてを確認する。	○ 学習のゴールを見通しながら、本時の活動内容が把握できるように、学習計画表を提示する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>【めあて】 調べたことをもとにして ほうこくしたい記号をえらぼう</p> </div>	
<p>2 取材カードを比べて分類し、報告したい記号を選ぶ。</p> <p>(1) 取材カードを比べる観点や分類の仕方について考える。 (思考)</p> <p>【観点】 「色」 「形」 「図・絵」 「意味」 「はたらき」 「記号のついている場所」</p> <p>(2) 自分の取材カードの中から報告したい記号を選ぶ。 (思考→判断)</p> <p>(3) 選んだ記号とその理由についてグループで伝え合い、選び方を見直す。</p>	<p>○ 第1時で、調べたい記号の仲間を選ぶ際には、絵カードを「色」や「形・絵」などの見た目で見分けたことを想起させる。そして、本時では、報告する記号を選ぶために、取材で知り得た情報をもとに、整理していくことを確認する。</p> <p>○ 取材カードの例を提示し、内容を比べることで、分類の観点「意味」「役割」「記号の使われる場所(箇所)」を共通理解させる。</p> <p>○ 個人作業でスムーズに記号を選ぶことができるように、全体での確認を丁寧に行う。</p> <p>○ 机間指導をし、迷っている児童には、記号の情報の類似点に目を向けて選択するようアドバイスする。</p> <p>○ 制限時間の中で考えさせるように促すが、時間内に決定できない児童がいても、次のグループでの話し合いの中で決めることができればよしとし、無理に決めさせることはしない。</p> <p>○ 決まったら、選んだ2～3枚のカードをワークシート上に置かせ、その取材カードに共通した観点を記入させる。</p> <p>○ それぞれのグループで、自分の考えや困っていることを一人ずつ発言させる。</p> <p>○ グループ交流の中で、児童同士でアドバイスし合いながら、分類を見直し、最終決定させる。また、必要に応じて、迷っている児童の相談にのる。</p> <p>○ 友達や教師のアドバイスで選んだ場合は、分類の観点を</p>

赤で記入させる。

- 選び終わった児童には，選んだ記号の類似点を具体的にワークシートに記述させる。
- 時間があれば，全体の場合でも選んだカードとその類似点について紹介させ，各自，選択した記号を確認させる。

評価【書イ】

観点を決め，類似点や相違点を考えて，取材カードを分類し，報告したい記号を選んでいる。

[ワークシートの記述内容]

A：数枚の取材カードに書かれた情報の類似点や相違点を考えて分類し，類似点を具体的に記述している。

B：数枚の取材カードに書かれた情報を読み比べて，分類の観点に応じて記号を選ぶことができる。

Cへの手立て

時間内に記号を選ぶことができなかった児童には，次時までには，個別に支援し，決定できるようにする。

3 本時を振り返り，次時の学習を確認する。

- 次時は，調査報告文の「はじめ」「中」「終わり」の構成メモを書くことを伝え，次時への意欲をもたせる。